

事業実績書

事業名	Weekend ENGLISH SUPPORT in Numazu	
場所	沼津市	
期間	2022年 4月 1日 ~ 2023年 3月 20日	
	日程	実施項目・作業項目
事業 内 容		<p>※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。</p> <p>イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)</p> <p>「Weekend ENGLISH SUPPORT in Numazu」では沼津市の小学生を対象にした、英会話・英語教育を行った。「エンジョイコース」・「スタディーコース」の二つのコースがあり、事業期間の今年度では毎月の活動を心掛けて月に一度、各コースを実施しています。「エンジョイコース」ではゲーム形式で、楽しい思い出作りと英語学習の二つを掛け合わせた授業を行っており、「スタディーコース」では英語学習を主に行っています。コロナ禍での影響により、ここ三年は ZOOM を使ったオンライン授業を実施していました。</p> <p>参加者は沼津市の小学校にチラシを送る、専用のウェブサイトを使用して毎月の宣伝を行う、Instagram の配信など、6人(2022年期の高2メンバー数)で仕事を分配して、私たちは活動を行いました。毎月の頭ごろにはその月で何を行うか、その月のレッスンでは何についてレクチャーを行うかについて月ごとの担当者三人を中心に決めました。その後、議題が決まれば、中心となった三名で会議を行って、スライドの内容などを決め、デザインなども決めていった。資料作成においては、主にグーグルスライドを使用して、事業に使用するスライドを作成した。</p> <p>スケジュールは各月のどこかの週末の夕方5時から一時間の授業を行い、授業後 English support のメンバーで 15分程度の反省・改善点を主としたミーティングを行っています。</p>
	4月	<p>新メンバーミーティング</p> <p>E サポの目標・運営方法・方針などを新しいメンバーで決める。去年の課題への対策や、メンバーが変わった上での運営方法の変更や、アイデア・計画などの話し合いをする。</p>
	4月～ 6月	<p>チラシ配布のための活動を行う。</p> <p>6月の初め(6/12)には、チラシ配布で集まった生徒たちに向けての授業を行う。</p> <p>E サポの持続の為の対策を立てる。</p> <p>将来の持続のために、活動資金の確保、E サポメンバーと参加者の人数を増加し、安定させる為の実施計画を立てる。</p>

7月～ 8月	<p>オンラインレッスン(1回)(7/17)</p> <p>レッスン後に、参加したメンバーで反省をする・レッスン感想のアンケートを参加者に送る。</p> <p>月の終わりに、レッスンの反省のまとめ、E サポとしての課題への対策計画と実行について話し合う。</p> <p>オンラインレッスン(1回)(8/14)</p> <p>レッスン後に、参加したメンバーで反省をする・レッスン感想のアンケートを参加者に送る。</p> <p>月の終わりに、レッスンの反省のまとめ、E サポとしての課題への対策計画と実行について話し合う。</p> <p>来年度のメンバーの募集を始める。 後輩のためのプレゼン準備、発表など</p>
9月～ 11月	<p>オンラインレッスン(3回)(9/11, 10/16, 11/13)</p> <p>レッスン後に、参加したメンバーで反省をする・レッスン感想のアンケートを参加者に送る。</p> <p>月の終わりに、レッスンの反省のまとめ、E サポとしての課題への対策計画と実行について話し合う。</p>
12月～ 1月	<p>オンラインレッスン(1回)(1/15)</p> <p>レッスン後に、参加したメンバーで反省をする・レッスン感想のアンケートを参加者に送る。</p> <p>月の終わりに、レッスンの反省のまとめ、E サポとしての課題への対策計画と実行について話し合う。</p>
2月～ 3月	<p>引き継ぎ期間</p> <p>新しいメンバーとの話し合い、役割決め、合同レッスンなど。</p> <p>オンラインレッスン(2回)(2/12, 3/12)</p> <p>レッスン後に、参加したメンバーで反省をする・レッスン感想のアンケートを参加者に送る。</p> <p>月の終わりに、レッスンの反省のまとめ、E サポとしての課題への対策計画と実行について話し合う。</p>

<p>事業効果</p>	<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>・海外で使える英語や、外国人との会話で使える英語の習得</p> <p>Eサポではエンジョイコースとスタディーコースの中で英語に関するレッスンをを行った。Google Slides を使用して授業前に資料を作成して、その季節ごとのトピックに関するレッスンをを行った。小学生たちには自分たちに英語の文を話させたり、自分たちに関することを日本語と英語を織り交ぜながら話してもらった。コースごとに楽しんで簡単な英語を使用して、英語を学ぶエンジョイコースと少し難しい語彙や文章の構成を使用したスタディーコースに分けることで、幅広い生徒に対して、英語のアプローチをすることができた。</p> <p>・沼津市内の小学生の交流</p> <p>今年度の活動においてはコロナ禍の中で、Zoom によるオンライン開催を用いて、沼津市内の小学生の交流の場を設けた。月に一回のレッスンでは生徒たちが自分たちで参加し、イベントを通して、高校生と一緒に小学生の交流の場を設けることができた。小学生たちの間での会話や交流の為に、授業の中で会話や英語の文章を使用してのコミュニケーションを行った。</p>
<p>自己評価</p>	<p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レッスン後に参加者からの感想フォームの入力をしてもらうことで、参加者のレッスンの内容などに関する意見を聞くことができ、それを次のレッスンに生かせるようになった。また、参加者のレッスンで取り扱って欲しい内容を感想フォームで聞き、参加者の要求に沿ったレッスンをする事ができた ・ オンラインレッスンでも参加者が積極的にコミュニケーションを取れるようなレッスンを心がけた結果、最初は緊張や英語で会話をする事に慣れていない参加者でも徐々に発言を積極的にしてくれるようになった。 ・ スタッフ同士のミーティングの回数を増やすことで、レッスンの改善点や評価点などを共有しあうことで、レッスンの質の向上に役立てることができるようになった。 ・ 昨年に引き続き公式 LINE を作ったことで、レッスンの募集を行うようになり、参加者とのやりとりがスムーズになった。また、気軽にメッセージを送り合うことができるという利点を活用し、公式LINEを通じて参加者の方々の相談や意見などについても聞くことができるようになり、より参加者との距離が縮まった。 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レッスンがオンラインになり、参加者が急激に減ってしまった。オンラインでも参加者にとって意義のある1時間になるようなレッスンの工夫が必要だと感じた。例えば、英語のレベルごとにクラスを分けたりし、そのクラスに合った内容ができるようなレッスンを行うなどが改善点として挙げられる。

	<ul style="list-style-type: none">• また、一部の授業では（主にスタディーコース）、レッスン内容が主に、スピーキングやライティングなどレベルが高すぎる授業をしてしまったために、参加者に負担を強いる結果となってしまった。参加者が楽しみながら、学習ができるような方法を模索する必要があると考える。• レッソンのスタイルがオンラインに切り替わったことにより、スタッフの参加者への接し方やレッスンの内容が対応しきれていなかった。直接参加者とコミュニケーションを取り合うことができないオンラインレッスンでは、参加者が緊張してしまったり、スタッフがレッスンを盛り上げきれなかったりした。オンラインでも気軽に発言できたり、コミュニケーションを取り合えるような工夫が必要である。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">• 総じて、オンラインレッスンでもありながら、満足してEサポの活動を行うことができたが、参加者の面においては改善点が残る結果となってしまった。来年度から対面活動を始めるにつれ、参加者を増やせるようにしていきたいと思う。• また、地域の小中学生との交流やつながりが生まれたこと、Eサポのリピーターが増えたこと、来年度のEサポの活動をするメンバーが増えてきたことは非常に良かったと思う。
今後の活動予定	<p>※ ファンドを利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。</p> <p>沼津市が運営している会議室を借り対面授業を実施していきたい。また、授業の形態も変えていきたいと考えている。従来ではエンジョイコースとスタディーコースという形で、Eサポを運営していたが、今季は対面方式に変更する分、授業内容もスピーキングを重視したものに変更していきたい。</p> <p>沼津市からのファンドの利用は辞め、別の法人から資金を提供してもらい活動を続ける。資金はペンやノートなどの授業で使う道具に利用する。</p> <p>活動回数を各コースの授業（上級・初級の speaking コース）、月に2回の授業を行う（授業回数の変更）</p> <p>ファンドを利用できた分、授業形態に幅を出すことができたことは非常に良かった。来期以降は、地域貢献を行なっている民間企業にある程度の資金援助を委託し、授業形態にさらに幅を出していきたい。</p>